

刑事訴訟法ゼミナール

准教授 村田 和宏

〈ゼミナールの目的・到達目標〉

当ゼミは、基礎学力の涵養を目的とします。すなわち、「話す」「読む」「書く」「聞く」力を養うということです。

これらは、「自分の頭で考える」ために必要なスキルでもあります。最終的には、政府、マスコミ、インターネット等からの情報を鵜呑みにせず、「自分の頭で考える」ことができるようになってほしいと考えています。

〈ゼミの内容、進め方〉

(2年次)

- ・「話す」力を養うため、毎回全員が1分間スピーチを行います。人前で話すことに慣れるのはもちろん、話の展開の仕方や情報収集の方法等も学びます。
- ・「読む」力を養うため、大学入試レベルの現代文の復習をします。直感やイメージで文章を読むのではなく、論理的に文章の構造を把握する方法を学びます。
- ・「書く」力を養うため、毎日欠かさず日記を書いて提出してもらいます。また、定期的にレポートを作成してもらい、添削を行います。
- ・「聞く」力を養うため、CD等を聴取し内容を正確に把握する訓練をします。
- ・「話す」「読む」「聞く」力を養うため、特定のテーマ（法学に限らない）についての討論を行います。
- ・その他「話す」「読む」「書く」「聞く」力を養うための様々な「仕掛け」を考えています（必然的に参加者の負担は増えます）。

(3年次)

基本的には、参加者と話し合って内容を決めます。2016年度は刑事訴訟法の事例研究を行っています。また、ゼミナール大会の準備も行います。

(4年次)

各自が研究する課題（法学分野）を設定します。そして、研究を行い、最終的にはその成果を論文にまとめて提出していただきます。

〈ゼミの年間スケジュール〉

通常の授業時間内の活動のほか、

- ・夏期および春期休暇中の集中授業もしくは合宿
- ・裁判の傍聴
- ・歓迎会等のコンパ

などを実施しています。これら授業時間外の活動についても参加することが求められます。

〈成績評価〉

ゼミに必ず毎回出席することが、成績評価の前提条件です。その上で、①主体的参加態度、②レポート等の提出物、③報告内容、④卒業研究を成績評価の対象とします。

〈求めるゼミ生像〉

- ・毎回必ず出席する意思がある者（欠席が多い場合には単位を認定しません）。
- ・熱意をもってゼミ活動に取り組む者（当ゼミは、参加者の作業が特に多くなります）。
- ・授業時間外のゼミ活動をいとわない者。

〈選抜方法〉

次のものを総合して判断します。

- ①所定の「ゼミナール申込書」の内容（詳細に記入してください）。
- ②次のうち1冊の感想レポート（A4版とする以外は様式自由、①のゼミナール申込書と一緒に提出してください）。
 - ・森達也『増補 きみが選んだ死刑のスイッチ』（イースト・プレス、2011年）
 - ・森達也『いのちの食べかた』（角川文庫、2014年）
 - ・小熊英二『増補改訂 日本という国』（イースト・プレス、2011年）
 - ・湯浅誠『どんとこい、貧困！』（イースト・プレス、2011年）
 - ・立岩真也『人間の条件 そんなものない』（イースト・プレス、2011年）
 - ・かこさとし『こどものとうひょう おとなのせんきょ』（復刊ドットコム、2016年）
- ③面接。ただし、応募者が定員を下回った場合には実施しません。実施の有無は掲示でお知らせします。

〈募集人数〉

10名程度

〈教員からのお知らせ〉

当ゼミでは、必ずしも刑事法を中心に扱うわけではありませんので、ご注意ください。